

大村市子ども夜間初期診療センター開設3ヶ月

子どもたちの時間外初期診療体制は、確保されています。

利用状況

開設以来3ヶ月の受診者総数は、437人です。そのうち、当センター受診後、専門的な精密検査や治療が必要で直ちに長崎医療センター受診が必要な方は、16人でした。1ヶ月に平均5.3人、437人の3.6%にあたります。ほとんどの方は、当センターによる初期診療で対応可能な方々でした。

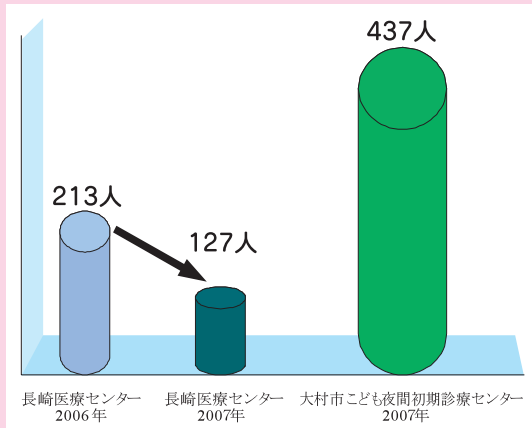
まずは大村市子ども夜間初期診療センターを受診してください

専門的な精密検査及び治療が必要な場合には責任を持って長崎医療センターへ紹介いたします。(救急車を要請するような重症の場合はこの限りではありません。)

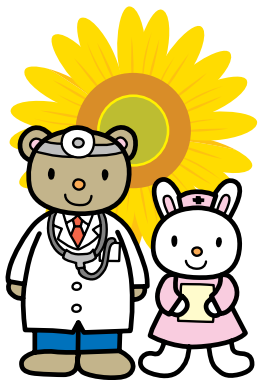
小児救急の役割分担が必要です

比較的軽症で、時間外受診患者数の大多数を占めている夜間の午後7時から午後10時を大村市子ども夜間初期診療センターが担い、受診者数が少なく、重症救急患者の多い深夜時間帯は、長崎医療センターに対応をお願いしております。

3ヶ月の患者総数 夜7時から10時まで



大村市立病院小児科の休診に伴い、長崎医療センター受診者の増加が心配されていましたが、当センターの開設により、夜7時から10時までの長崎医療センターの受診者は、昨年に比べ半減しています。大村市子ども夜間初期診療センターによって従来同様、時間外の小児初期診療体制が確保されております。小児救急の役割をしっかりと分担し、小児夜間救急に対する市民の方々の不安を解消すべくこれからも取り組んでまいります。



医師会だより

Vol.7
2007.7.20

発行/ (株)大村市医師会
大村市協和町779番地
TEL 0957-54-0151
FAX 0957-54-3646
印刷: (株)つじ印刷

健康コラム VOL.7

子どもの腹痛

大村市医師会 会員
尹 忠秀

腹痛は子どもによく見られる症状の一つですが年齢によって痛みの表現はさまざまであること、発熱や咳と違い外から見ただけではわかりにくいことが特徴です。機嫌が悪くてグズグズ

とがあるため早めに受診してください。また痛がる場所がへそから離れているほど病気が隠れている可能性が高いとされており注意が必要です。

いていたのが腸重積だった、おなか

病院を受診する際には家族や周囲に腹痛・嘔吐・下痢の人がいないか、食事の内容や摂取量、排便や排尿の頻度、便の性状、痛みの持続時間や痛がっていたときの様子などの情報を伝えることも重要です。できるだけ詳しい様子がわかる人と受診するよう

ことに周囲が気づいてあげることが大切ですし、年長児でもおなか以外に変わった様子がない

また小児の腹痛では不用意に抗生剤や下痢止めを服用すると症状がひどくなる場合もあります。家にある薬を適当に飲むのではなく症状に合わせた薬を服用するようにしましょう。

この

冷たいものの食べ過ぎや食中毒などが増えて来る季節です。健康管理には十分注意しましょう。

腹痛は子どもによく見られる

